

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：32632

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00290

研究課題名(和文) 西鶴以降の浮世草子の総合的研究

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of Ukiyo-zoshi After Saikaku

研究代表者

佐伯 孝弘 (SAEKI, Takahiro)

清泉女子大学・文学部・教授

研究者番号：40255956

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：浮世草子研究会の例会を再開し、都の錦『御前於伽』精読を完了した。長谷川強氏より寄贈を受けた浮世草子等の複写物300点余の保存状態等の確認を行い、順次製本作業中である。全浮世草子180余作の複写が揃う貴重な資料故、製本作業終了後にリストを公開し研究代表者の勤務校(清泉女子大学)に保管する予定。前の科研費研究から継続の「西鶴・浮世草子研究文献目録」作成作業は、昭和45年～60年の文献のキーワード取り作業を実施した。未定稿ではあるが、昭和20年～平成21年分の文献目録に索引機能を付けてWeb上で公開すべく、準備中である。最終年度に韓国より研究者を招き、浮世草子に関する国際シンポジウムを開催した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

都の錦作『御前於伽』は書式や注の再整備を行った上で浮世草子研究誌上に翻刻を載せる予定。未翻刻作ゆえ、注を付して翻刻することは、都の錦研究や近世怪異譚研究に寄与するはずである。長谷川強氏より寄贈を受けた浮世草子複写物は、氏が全国の大学・図書館等を回り30年以上掛けて収集されたものである。全浮世草子の約3分の1の作品が揃い、且つ同一作品の異本の複写もある故、浮世草子の書誌や挿絵、出版書誌との関係等についての貴重な研究資料。製本作業終了後に、何とか公開できるよう便宜を図りたい。国際シンポジウムは、外国人研究者から見た浮世草子の魅力や文学史的意義を浮き彫りにさせる機会となった。

研究成果の概要(英文)：The Ukiyo-Zoshi Kenkyukai resumed its regular meetings and completed a close reading of "Gozen-Otogi," a brocade of the capital. The preservation condition of the more than 300 copies of Ukiyo Zoshi and other works donated by Mr. Tsuyoshi Hasegawa was checked, and they are now being bound. The list will be made public and stored at Seisen Women's University, where the principal investigator works, after the bookbinding work is completed. The "Bibliography of Saikaku and Ukiyo-zoshi Research" project, which was continued from the previous Grant-in-Aid for Scientific Research, involved the keyword-collecting of documents from 1970 to 1985. Although the draft is still undecided, we are preparing to add an index function to the bibliography for the years 1945 to 2009 and make it available on the web. In the final year of the project, an international symposium on Ukiyo-Zoshi was held, inviting researchers from South Korea.

研究分野：日本文学

キーワード：浮世草子 都の錦 御前於伽 井原西鶴 西沢一風 遊眼嘶不老時宗

1. 研究開始当初の背景

浮世草子の研究は従来井原西鶴作品の研究に偏り、西鶴以外の作者の作品に関してや、浮世草子というジャンル全体に亘る研究は十分に進んでいない。それは、通史的研究の面でも典拠研究の面でも長谷川強氏の業績(『浮世草子の研究』昭和44年、桜楓社、平成3年再刊)、『浮世草子考証年表 宝永以降』昭和59年、青裳堂書店等)を超える研究書が未だに出ないことが如実に示している。近世小説の他のジャンルでは、『洒落本大成』全30巻(昭和53~63年、中央公論社)、『噺本大系』全20巻(昭和50~54年、東京堂出版)、『仮名草子集成』既刊69巻(昭和55年~現在も刊行中)といった整備された全集が存在したり、『近世初期文芸』『読本研究』『読本研究新集』といった専門学術誌が存在したりするが、浮世草子にはなかった。しかし、申請メンバー全員が関わった『八文字屋本全集』(平成4~12年、汲古書院)により八文字屋本が翻刻され、その他錦文流・西沢一風・北条団水・青木鷺水・石川流宣等の作者の全集も徐々に整い、やはり申請メンバー全員が編集あるいは項目執筆に関わった『西鶴と浮世草子研究』全5巻(平成18~23年、笠間書院)や『浮世草子大事典』(平成29年、笠間書院)も刊行に至った。浮世草子の研究条件は確実に整いつつある。

申請者と研究分担者は、平成元年以来勉強会を継続する浮世草子研究会のうち、首都圏の大学の専任職にあるメンバーである。浮世草子研究会は浮世草子研究・西鶴研究の泰斗である長谷川強氏(現在は例会に不参加)富士昭雄氏(故人)篠原進氏(前青山学院大学教授)の参加を仰ぎつつ、西鶴以降の浮世草子作品につき、毎月例会で精読を行い、注釈・通釈を施す作業を行って来た。行う作業は細密なものだが、常に、細部の読みや調査が作品論や作家論、延いては近世文化・風俗研究の根幹に関わるのだ、という問題意識を持って行っている。研究代表者の佐伯孝弘は西鶴以降の最大の浮世草子作者である江島其磧を専門として『江島其磧と気質物』(平成16年、若草書房)を出した他、浮世草子と怪談、笑話との関わりについて考察している。長谷川(倉員)正江は、元禄~享保期の実事件と浮世草子との関係、記録(日記など)と浮世草子の関係、幕府の出版統制の浮世草子界への影響、歴史的事件を虚構化する実録体小説等々につき、精力的に研究している。杉本和寛は、西沢一風作の浮世草子作品や、浮世草子と当時の流行風俗や出版状況との関連について研究している。井上和人は、西沢一風を専門として一風作の諸作の趣向や演劇との関係につき考察する他、西鶴作品や末期浮世草子作品まで対象を広げて研究している。水谷隆之は、西鶴の遺稿集を纏め自身も作品を残した北条団水を専門として『西鶴と団水の研究』(平成25年、和泉書院)を出した他、西鶴の俳諧についても研究している。我々の研究グループは、過去に複数回の科学研究費補助金を受け、浮世草子研究会の初の学術雑誌として『浮世草子研究』創刊準備号(平成16年11月)を刊行し、西鶴研究会と合同で、各巻異なるテーマを掲げる形で『西鶴と浮世草子研究』全5巻(前掲)を刊行。更に浮世草子のジャンルに属する全作品560余作(端本を除く)を網羅して立項した『浮世草子大事典』(前掲)も刊行した。浮世草子研究会には研究代表者・研究分担者以外に十名前後の参加者・協力者がいて、そうした会員・協力者の協力を得つつ、科学研究費補助金を利用し、浮世草子に関する資料整理や研究文献目録作り(検索機能付き)や、浮世草子の専門学術誌発行準備、関連資料整理等を行っている。

2. 研究の目的

西鶴以外の作については遅れていた浮世草子研究をより活性化させ、浮世草子研究を点でなく面で繋いで行きたいと考えている。また、翻刻・辞典・専門誌・文献目録の整備などの研究条件を整えたり、浮世草子をテーマとした国際シンポジウムを開催したりすることによって、他ジャンルの研究者や一般の読者からの注目度を高め、浮世草子と他ジャンルの関係や社会背景との繋がり等について研究を深めて行くことを目的としている。浮世草子の刊行された時代は元禄期に代表される出版文化の盛行期や経済発展期と重なっており、町人文学として成立し挿絵を備える浮世草子は、文学研究としてのみならず、近世前期・中期の風俗研究、言語研究、庶民の意識の研究等に資するところ大である。浮世草子に関する国際シンポジウムは、浮世草子研究における日韓の研究者の交流、及び浮世草子研究に東アジアの視点を加える狙いを有している。

3. 研究の方法

具体的には下記の(1)~(5)の作業に従事した。

- (1) 浮世草子作品の注釈作業
- (2) 未翻刻浮世草子作品の翻刻
- (3) 研究資料(作品の複写)の整理
- (4) 専門学術誌の発行準備
- (5) 西鶴と浮世草子に関する文献目録の作成
- (6) 国際シンポジウムの開催
- (7) メンバー各人による、浮世草子と他ジャンル、あるいは実事件との関係の考察

4. 研究成果

- (1) 浮世草子作品の注釈作業・・・都の錦作『御前於伽』(元禄15年刊)の精読と注釈を終え

た。また、その前に精読し終えていた江島其磧作『風流曲三味線』(宝永3年刊)の注釈につき、公刊に向け語注を整備し直す作業に着手した。

(2) 未翻刻浮世草子作品の翻刻・・・長谷川(倉員)正江が福隅軒蛙井作『遊眼嘶不老時宗』(明和4年刊)の翻刻・解題を連載の形で発表した(『近世文芸研究と評論』98~100号、令和2年6月~同3年6月)。

(3) 研究資料(作品の複写)の整理・・・研究期間の初頭に、長谷川強氏より浮世草子と周辺分野の作品の複写物(段ボール18個分)の寄贈を受けた(清泉女子大学の佐伯の個人研究室に保管)。これらは、長谷川氏が30年以上の年月を費やして、全国の図書館・博物館・大学といった浮世草子所蔵機関を回って集められたものである。資料中には全浮世草子作品の約3分の1の180余作の複写があり、同一作の異本も多数含む。同一ジャンルの複写物を同時に比較しつつ眺め得る点で、非常に貴重である。1点1点保存状態や所蔵機関の確認等を行ってリストを作成。最終確認の済んだものから順に製本作業を行っているところである。(製本作業が終了後に、リストを公表。著作権の問題で未確定だが、できれば資料を希望者に対し閲覧可能な形にしたいと考えている。)

(4) 専門学術誌の発行準備・・・ほとんどの原稿は揃っているものの、原稿の未入稿のものがあり、研究期間内に刊行できなかった。

(5) 西鶴と浮世草子に関する文献目録の作成・・・文献リスト(明治から平成21年まで)は出来上がっているものの、検索機能を付けるため、各文献を分担して読んでキーワードを抽出する作業を進めている。昭和45~60年のリストにある文献につき、浮世草子研究会会員等の協力者にも分担してもらいつつ行った。(目録は索引機能を整備し、取り敢えず未定稿の形で近々文学通信と清泉女子大学の両方のwebで公開する予定。)

(6) 国際シンポジウムの開催・・・研究の最終年度である令和5年1月27日に、韓国から研究者を招き、清泉女子大学で、浮世草子に関する国際シンポジウムを開催した。佐伯が司会役を務め、以下の7本の口頭発表を行った。

- ・倉員正江「浮世草子に描かれた被差別民観 『風流連三味線』所収2話を中心に」
 - ・水谷隆之(立教大学教授)「『寛濶平家物語』の作者と宝永の浮世草子出版界 団水作としての可能性」
 - ・杉本和寛「西沢一風横本型浮世草子の版元の問題 『好色閻魔歌舞記』と『けいせい伽羅三味線』をめぐって」
 - ・李忠濬(釜山外国語大学校副教授)「時代物浮世草子における軍学者の人物造形について 『楠三代壮士』を中心に」
 - ・井上和人「『熊坂今物語』の 奇想天外」
 - ・高永爛(全北大学校副教授)「韓国における浮世草子研究および教育の現状と課題」
 - ・金学淳(忠南大学校助教授)「東アジアの女たちと性 江戸の遊女と朝鮮の妓女」
- 当日、発表後にフロアを含め活発な質疑応答が行われた。(本シンポジウムの内容は、令和5年度か6年度のうちに、発刊を予定している浮世草子の専門学術誌の2号で活字化する予定である。)

(7) メンバー各人による、浮世草子と他ジャンル、あるいは実事件との関係の考察・・・メンバー各人が論考を纏め、勤務校の紀要や学会誌等に発表した(別掲)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 長谷川（倉員）正江	4. 巻 100号
2. 論文標題 「『当世信玄記』の典拠と時事性について 義太夫正本「自然居士」と柳沢騒動をめぐって」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『近世文芸 研究と評論』	6. 最初と最後の頁 pp13-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川（倉員）正江	4. 巻 21号
2. 論文標題 「出頭人と龍童の時代 仮名草子・西鶴・都の錦・其磧から柳沢騒動へ」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 pp22-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉本和寛	4. 巻 47号
2. 論文標題 「『新補倭年代皇紀絵章』とその意義」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『東京藝術大学音楽学部紀要』	6. 最初と最後の頁 pp1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上和人	4. 巻 21号
2. 論文標題 「浮世草子と「見立て」 元禄・宝永期の八文字屋本を中心に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 pp59-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水谷隆之	4. 巻 21号
2. 論文標題 「西鶴没後の浮世草子 - 『西鶴冥土物語』の作者をめくって-」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』	6. 最初と最後の頁 pp73-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上和人	4. 巻 142
2. 論文標題 「『諸国武道容気』成立考 本文の二系統、成立過程および作者」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『関東学院大学人文学会紀要』	6. 最初と最後の頁 240-266
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉員正江 (根本育実・柳昭太郎と共編)	4. 巻 98
2. 論文標題 「『遊眼嘶不老時宗』翻刻(一)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近世文芸研究と評論』	6. 最初と最後の頁 70-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 倉員正江 (根本育実・柳昭太郎と共編)	4. 巻 99
2. 論文標題 「『遊眼嘶不老時宗』翻刻(二)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『近世文芸研究と評論』	6. 最初と最後の頁 24-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長谷川(倉員)正江	4. 巻 96
2. 論文標題 「『日乗上人日記』に見る元禄期の時事雑説ーよもいち・因果応報譚・水木辰之助・岩井左源太ー」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『近世文芸研究と評論』	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 杉本和寛	4. 巻 45
2. 論文標題 「『好色閻魔歌舞記』追考」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『東京藝術大学音楽学部紀要』	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上和人	4. 巻 140
2. 論文標題 「宮木はなぜ死んだのかー学生と読む「浅茅が宿」ー」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『関東学院大学人文学会紀要』	6. 最初と最後の頁 156-178
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 巻 67巻10号
2. 論文標題 「多田南嶺『世間母親容気』論」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本文学』	6. 最初と最後の頁 12-22
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井上和人	4. 巻 138号
2. 論文標題 「『実話東雲烏』補考 典拠追考および「奇談」史上の位置づけについて」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『関東学院大学人文学会紀要』	6. 最初と最後の頁 100-116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 佐伯孝弘
2. 発表標題 「近世怪異譚の多様性」
3. 学会等名 国際日本文化研究センター機関拠点型基幹プロジェクト「大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出」、平成31年3月9日 (於) 国際日本文化研究センター (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉員 (長谷川) 正江
2. 発表標題 「江戸時代の往来物に見る古典教材について」
3. 学会等名 日本学会議 言語・文学委員会 古典文化と言語分科会、平成30年7月30日 (於) 慶應義塾大学三田キャンパス
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 258
3. 書名 「日本文学史を彩る (作った) 名作・作家たち52 『好色一代男』」 (千葉一幹・西川貴子・松田浩・中丸貴史編 『日本文学の見取り図』)	

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 発行年 2021年
2. 出版社 武蔵野書院	5. 総ページ数 720
3. 書名 「光源氏と世之介 「幻」巻と西鶴『好色一代男』最終章の比較から」(久保朝孝編『源氏物語を開く』)	

1. 著者名 水谷隆之	4. 発行年 2021年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 447
3. 書名 「漂流と漂着—『韃靼漂流記』を中心に—」(染谷智幸編『はじめに交流ありき - 東アジアの文学と異文化交流 -』)	

1. 著者名 佐伯孝弘(松田浩・上原作数・佐谷眞木人と共編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 238
3. 書名 『古典文学の上記を疑う - 縦・横・斜めから書きかえる文学史 -』	

1. 著者名 佐伯孝弘	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 238
3. 書名 「江戸時代の人々は怪異を信じていたのか」(『古典文学の上記を疑う』)	

1. 著者名 水谷隆之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 536
3. 書名 「古典をもじり浮世を描く－『仁勢物語』『吉原徒然草』－」（長島弘明編『奇と妙の江戸文学事典』）	

1. 著者名 水谷隆之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文学通信	5. 総ページ数 536
3. 書名 「色好み」が「好色」になった－『好色一代男』－」（長島弘明編『奇と妙の江戸文学事典』）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

井上和人「『実話東雲烏』補考：-典拠追考および「奇談」史上の位置づけについて」 https://kquopac.kanto-gakuin.ac.jp/webopac/NI30003176
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	井上 和人 (INOUE Kazuhito) (30613971)	関東学院大学・国際文化学部・教授 (32704)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	杉本 和寛 (SUGIMOTO Kazuhiro) (40282545)	東京藝術大学・音楽学部・教授 (12606)	
研究分担者	水谷 隆之 (MIZUTANI Takayuki) (60454500)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	倉員 正江 (長谷川正江) (KURAKAZU Masae) (70307817)	日本大学・生物資源科学部・教授 (32665)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 浮世草子に関する国際シンポジウム（於清泉女子大学）	開催年 2023年～2023年
-------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------